

1. 略歴

- 1997年3月 東京大学文学部歴史文化学科西洋史学専修課程卒業
2002年11月 ロンドン大学 UCL 考古学研究所修士課程修了 学位取得 修士（文化遺産研究）
2003年3月 東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻修士課程修了 学位取得 修士（文化経営学）
2004年5月 国連教育科学文化機関（ユネスコ）パリ本部文化セクター文化遺産部コンサルタント（～同年7月）
2005年6月 国連教育科学文化機関（ユネスコ）パリ本部文化セクター文化遺産部コンサルタント（～同年8月）
2009年10月 ロンドン大学 UCL 考古学研究所博士課程修了 学位取得 博士（パブリックアーケオロジー）
2010年9月 ロンドン大学 UCL 考古学研究所名誉講師（Honorary Lecturer）
2011年9月 セインズベリー日本藝術研究所学術アソシエイト（Academic Associate）
2011年9月 イーストアングリア大学（University of East Anglia）世界美術・博物館学科（School of World Art Studies and Museology）准教授（Lecturer）
2014年8月 イーストアングリア大学（University of East Anglia）芸術・メディア・アメリカ研究学科（School of Art, Media and American Studies）准教授（Lecturer）（組織再編）
2015年1月 イーストアングリア大学高等教育実践準修士課程修了 学位取得 準修士（高等教育実践）
2015年10月 東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

文化資源学、文化遺産研究、パブリックアーケオロジー、博物館研究

b 研究課題

私の研究の根底にあるのは、人々にとって過去が何を意味するのかという問いにある。いかにも大仰な問いだが、この関心に導かれるかたちで、これまで人々が社会においてどのように過去をイメージし、理解し、使う（そして場合によっては「消費する」）のかをさまざまな角度から考察してきた。直接関連する分野としては、文化資源学、文化遺産研究、博物館研究、物質文化研究、人文地理学などがあげられるが、おそらくあらゆる学問分野に何らかのかたちで関わりがあり、分野横断的に展開できるテーマではないかと思っている。これまでは考古学に関連する文化遺産を事例研究にすることが多く、その中でパブリックアーケオロジーという領域に強い関心をもってきた。現在は、近現代における古墳と地域住民との関係史、自然災害に対する社会の記憶、文化遺産とノスタルジアとの関係、文化遺産に真実性はどれほど必要か、といったテーマにとりわけ注力している。東京大学本郷キャンパスという文化資源を魅力的にプレゼンテーションする方策にも興味をもっている。

c 概要と自己評価

2020～2021年度は、主に（1）文化遺産研究の理論構築、（2）パブリックアーケオロジーの理論構築、（3）博物館制度の検討、（4）東京大学本郷キャンパスという文化資源、という4つのテーマに絞って研究を遂行した。そこから結実した主要出版業績は、次項を参照。コロナ禍により海外でのフィールドワークや学会参加ができなくなったが、その分、日本国内の資料を精査することに注力できた。

d 主要業績

(1) 論文

松田陽、「文化資源学の国際展開」、『文化資源学—文化の見つけかたと育てかた』、2021

松田陽、「観光政策と博物館認証制度」、『博物館の未来を考える』、2021

松田陽、「パブリックアーケオロジーと二つの「差」」、『京都外国語大学国際文化資料館紀要』、第13、2022

(2) 論考

松田陽、「ソンマ・ヴェスヴィアーナの古代ローマ遺跡の保全と活用」、『地中海学研究』、2020

松田陽、「文化遺産研究からみた宗教遺産学」、『宗教遺産テキスト学の創成』、2022

3. 主な社会活動

(1) 行政委員会

文化庁、文化審議会委員（分属は文化政策部会、世界文化遺産部会、無形文化遺産部会）

文部科学省、「世界の記憶」国内案件に関する審査委員会、委員

文化遺産国際協カコンソーシアム、文化遺産国際協カコンソーシアム欧州分科会、委員

日本学術会議（分属は「博物館・美術館等の組織運営に関する分科会」と「文化財の保護と活用に関する分科会」）、
連携会員

市川市、市川市博物館協議会、委員

鹿児島市、鹿児島市火山防災アドバイザー、委員

川崎市、橘樹官衙遺跡群調査整備委員会、委員

高崎市、史跡保渡田古墳群保存活用計画策定委員会、委員

富岡市、富岡製糸場インタープリテーション検討委員会、委員

(2) 学会

文化資源学会、理事・事務局長

日本考古学協会、国際委員会委員

学術雑誌『Antiquity』編集諮問委員

学術雑誌『Public Archaeology』編集諮問委員

学術雑誌『World Art』諮問委員